



# 2023 夏休みおすすめ本 中学生

## 『カメラにうつらなかつた真実』 334パ 徳間書店

エリザベス・パートリッジ／文 ローレン・タマキ／絵 松波 佐知子／訳  
収容所の過酷な生活に耐える人々の様子を残した写真、収容所で起きている出来事を記録した写真、収容所の中で前向きに生きる人々の姿を表現した写真。戦争中、多くの写真が撮られ公開されました。ですが、うつっていることだけが真実ではありません。この本を見て、あなたは何を感じるでしょうか？

## 『6カ国転校生ナージャの発見』 372キ

キリーロバ・ナージャ／著 集英社インターナショナル  
小中学生の頃のナージャは、毎年違う国の現地校に通い、世界6カ国の転校を経験しました。そこでは、小学校の座席や給食のシステム、夏休みの過ごし方など、各国で違いがありました。ナージャが体験し、発見したことが紹介され、国ごとの違いを楽しみながら読むことができます。

## 『黄色い夏の日』 913タ

たかどの 高楼 方子／著 木村 彩子／画 福音館書店  
七月、中学一年生の景介は以前から心惹かれていた古い洋館を訪れた。美術部の課題の絵を描こうと思ったのだ。木々と草花に囲まれながら、堅牢にしんと建っている家。庭には黄色いキンボウゲの花が咲き、キラキラ光っている。中から現れたおばあさんに頼まれて手伝いをしていると、景介は一人の不思議な少女に出会う。

## 『わたしの空と五・七・五』 913モ

もりの 森埜 こみち／作 山田 和明／絵 講談社  
「しゃべりはにがてでも ペンをもったら 本音をぶちまけられる者よ！ 文芸部に入るべし」。しゃべりが苦手な空良は、こんな言葉にひかれて文芸部に入部した。そして…。あなたは、いつでも本音で話せますか？空気読みすぎてもんもんとしていませんか？この夏、自由で楽しい俳句の世界を体感して、あなたも本音をぶちまけてみない？

## 『星の王子さま』 953サ

サン=テグジュペリ／作 内藤 濯<sup>あろう</sup>／訳 岩波書店  
これは、ある星からやってきた王子さまとパイロットのお話。この世でとても大事な「お金」。でも、そのお金と同じくらい、もしくはそれ以上に大切なものがある、ということ王子さまは気づかせてくれます。作者は第二次世界大戦のただ中、飛行中に消息不明となってしまいましたが、出版から80年経った今も、この作品は色あせることのない思いを私たちに伝えてくれます。

## 『ある晴れた夏の朝』 Y913コ

こてまり 小手鞠 るい／著 偕成社  
あるテーマについて、肯定派と否定派に分かれて討論することをディベートといいます。このお話では、アメリカの8人の高校生が原子爆弾投下をテーマにディベートをします。さて、どのような討論が繰り広げられるのでしょうか。それぞれの立場からの考え方を聞くことで、平和について深く考えるきっかけになります。ぜひ、あなたの意見もまとめてみてください。

## 『まほうのレンズ』 YIB933ヒ

リチャード・ヒューズ／作 矢川 澄子／訳 岩波書店  
まほうのレンズをのぞくと…、人間は人形に、人形は人間に！あべこべに入れ替わってしまうまほうのレンズでみんなは大騒ぎ！その他、たいくつすると電話線をつたって相手の家に遊びに行く女の子が帰れなくなる話、クモに誘われ、その住まいである空の上の宮殿で暮らすことになった女の子の話など、不思議でとってもわくわくする楽しいおはなしが全14話収録。



小川町立図書館